３.ビジョン実現に向けた視点
（取組の具体例）

行政・企業・団体で見られる課題とビジョン実現に向けた視点

関連する情報・手続がバラバラに提供される状態

・同じ情報が複数の手段で発信され、利用者が見つけにくい
・サービスや手続ごとに利用方法が異なり、わかりにくい
・個人情報などの記入が手続きごとに繰り返し求められる

視点１　まとめる

▸ **利用者目線に立って情報や手続、サービスをまとめて提供**することで、迷わず利用ができる



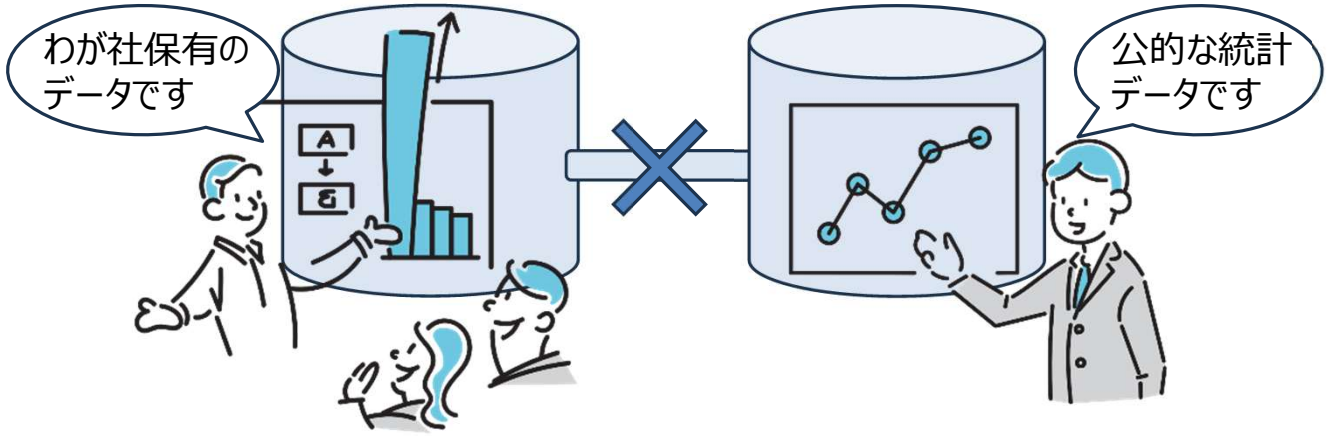
行政・企業・団体で見られる課題とビジョン実現に向けた視点

組織間の壁で情報が分断された状態

・データやシステムが組織ごとにわかれ、つながっていない
・情報を組み合わせるのに時間がかかり、課題が見えにくい
・全体像が把握できず、適切な判断や対応が遅れる

視点２　組み合わせる

▸ 官民、分野、地域の**垣根を越えて**
データ・取組を組み合わせることで、
全体を踏まえた判断や対応ができる



個々のデータはあるが、
連携されていない



全体像が見えず、
判断や対応ができない

行政・企業・団体で見られる課題とビジョン実現に向けた視点

「現状打破」の仕掛けに躊躇してしまう状態

- 現場の気づきやアイデアを試せず、具体的な取組に移せない
- 変化やリスクの兆しを捉えられず、適切に対応できない
- 新しい技術や手法をすぐ試せず、チャンスを逃してしまう

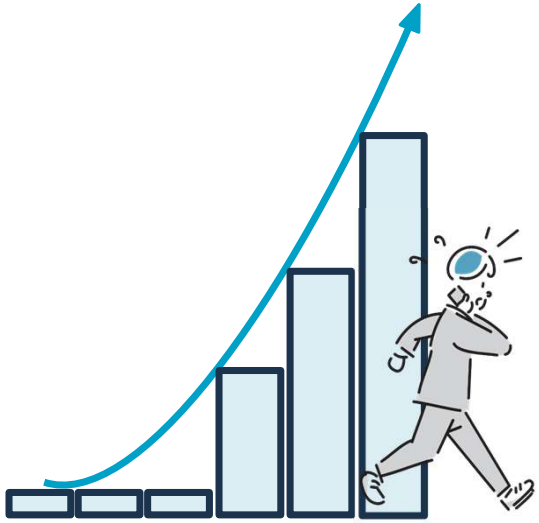
視点３　やってみる

- 失敗を恐れず、**果敢に挑戦し、柔軟な発想でまずやってみる**ことで
  チャンスを逃さず、リスクに対応ができる



やってみたいが試せない

兆しがあったのに対応が遅れた



成長の流れに乗り遅れた

取組の具体例①

能登半島地震対応・仮設住宅の入居期間延長手続をSNSでオンライン化

- 紙申請では、記入漏れや不備が多く、審査や手入力によるデータ化の負担が増大
- LINEを活用したオンライン申請を導入し、**被災者の状況に応じた入力項目を表示することで、記入漏れ等を防止するとともに、共通データ基盤により県・市町間で回答・審査状況を共有**

Before



After



視点１　まとめる

- 必要な手続をわかりやすく案内
- 迷わず完結できるオンライン申請

視点２　組み合わせる

- 県・市町間のデータ集約・共有
- リアルタイム共有による効率的な審査

取組の具体例②

平時のインフラ点検等・災害時の被害把握に自律飛行型ドローンを活用

- 庁内の複数部局（土木・農林・環境・警察）において、通信事業者が能登半島12箇所に設置したポートからドローンを飛ばし、道路など**インフラ点検やパトロールでの活用を実証**
- 全国に先駆けて、**平時・災害時を問わない有用性や運用コスト等の検証**と実装を目指す

平　時

・インフラ点検
（道路・河川・ダムなど）

・パトロール
（行方不明者・クマなど）



災害時

被災現場での
初動調査

視点２　組み合わせる

- 通信事業者と県の協業と部門間でのドローン共用
- インフラ点検、パトロール、防災のデータ共有

視点３　やってみる

- 自律飛行型ドローン・遠隔運航の事例積み上げ
- データ・AI活用による業務効率化・高度化を検証

取組の具体例③

平時の健康増進・災害時の情報把握にマイナ連携スマホを活用（のとピッと）

- 県と通信事業者が、**平時の“健康増進”や、災害時の“被災者の情報把握”に活用する新たなサービス**「のとピッと」を能登6市町対象に、令和８年２月から開始

平　時

外出促進
＋
健康増進







災害時

居所・活動
情報の把握と
個別支援を
効率化

視点１　まとめる
- 一度の登録で必要な支援につなげる
- 支援に必要な情報を一元管理

視点２　組み合わせる
- 様々な行政サービスに活用
- 複数システムのデータを連携

視点３　やってみる
- 平時から災害時まで切れ目ないサービスを実装（フェーズフリーの実現）

取組の具体例④

県内の漁業・クマ対策などの地域課題をオープンデータで解決（ハッカソン）

- **県内の地域課題**をテーマに、全国から関心を持って集まる**個人・学生・事業者がチームを組み**、解決策のアイデア創出から試作・開発まで行う**「ハッカソン」**を開催
- 現場ヒアリングやオープンデータを活用して、**課題解決やサービスの創出**につなげる







視点１　まとめる

- 現場の声やニーズを把握
- オープンデータで実態を理解

視点２　組み合わせる

- 多様な参加者による共創
- データと技術で解決策を検討

視点３　やってみる

- 試作品を開発
- 成果を発表し、地域で実証

取組の具体例⑤

県・市町の職員によるデジタル技術を活用した業務改革

- 県・市町の職員からアイデアを募集し、研修や相談会、専門チームによる伴走支援を通じて、**デジタル技術を活用した新たな取組を試し、その効果を検証しながら事業化につなげる**



視点１　まとめる
- 知見・事例をナレッジとして蓄積
- 相談窓口をワンストップ化

視点２　組み合わせる
- 業務知識×デジタル技術
- 他部局で連携したチーム組成

視点３　やってみる
- 小さく始めて効果を検証
- 成果を横展開、他事例を取り入れる